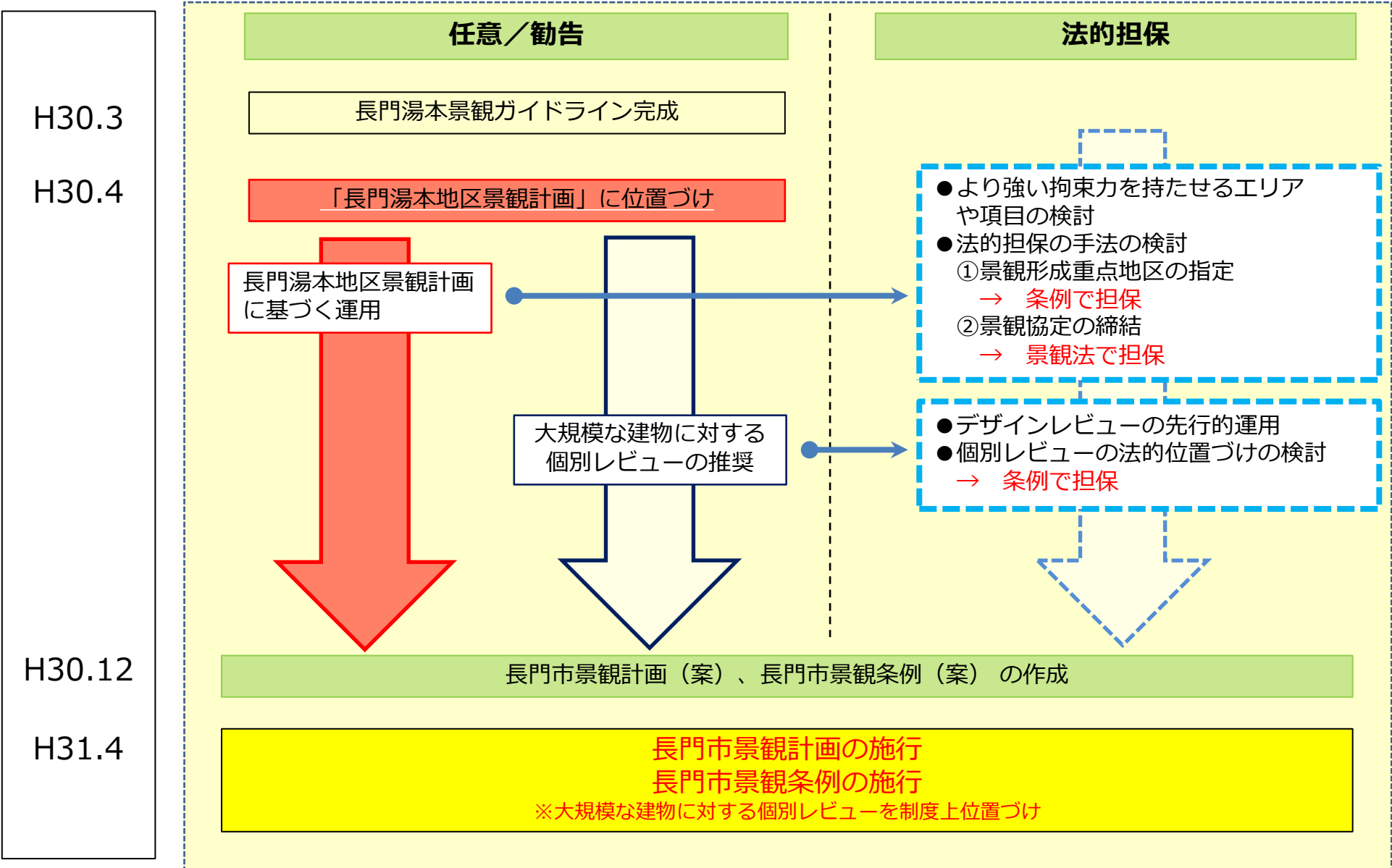


＜景観ガイドライン・景観計画・景観条例の運用＞



法的担保の整備状況

1. より強い拘束力を持たせるエリアや項目の検討、法的担保の手法の検討 門前、湯本、三ノ瀬エリアを「景観形成重点地区」に指定（H31.4.1予定）

H30. 6.17	地区別説明会
7.16	ワークショップ
8.1～4	よろず相談会
8.19	自治会総会（門前区）
8.24	自治会役員会（三ノ瀬区）
8.26	自治会役員会（湯本区）

法的拘束力のある対応策として
行政主導による法的担保の手法
「重点地区」指定を提案、検討

合意形成

2. デザインレビューの先行的運用、法的位置づけの検討

旅館や新恩湯など景観要素の大きい案件は事前協議の仕組みとしてデザインレビューを実施
法的な位置づけとして条例規定に盛り込む方針

長門市景観条例（案）の概要

<景観形成重点地区の指定>

特に良好な景観を有する地区、本市の景観形成において重要な役割を果たす地区、良好な景観形成を進める上で特に重要と認められる地区を景観形成重点地区として指定する。

重点地区には、地区ごとの景観形成に関する方針や行為の制限等の必要な事項を定める。

<事前協議>

建築物等の基準について、市民、事業者、行政が共通認識を深めるため、**届出の前に市と事前に協議を行わなければならない。**

事前協議に対して、景観に大きな影響を及ぼす行為と認める場合においては、審査会の意見を聴くことができる。